

事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-1-2
発達段階に応じた教育の振興

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長 教育指導課地域教育推進室長 濱村 浩之 電話番号 0852-22-5738

事務事業の名称	明日のしまねを担うキャリア教育推進事業	
目的	(1) 対象	市町村立小・中学校の児童生徒、県立高校の生徒及び特別支援学校高等部の生徒
	(2) 意図	児童生徒一人一人が社会人・職業人として自立していくためキャリア教育を推進するとともに県内就職の促進に資する。
事業概要	社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成や地域産業の理解や地域課題の発見等を通じて、島根の将来を担う人材を育てる。 【市町村】 ・みんなのまちづくりプロジェクト：ふるさと島根を素材とし、学ぶことの意義や学びと社会のつながりを実感できるプロジェクト学習の展開。 【県立学校】 ・働くことを学ぼう事業：産学官と連携し、高校生が県内で働く大人から学ぶ機会を充実（企業見学、職業意識啓発セミナー、インターシップ等） ・学びを活かそう事業：産学官と連携し高校生の学びを充実（課題解決型学習推進、全国大会で研究成果披露、産業教育理解促進、食の縁結び甲子園） 【全校種】 ・キャリアパスポート調査・研究事業：高等学校3校と1市を指定し、キャリアパスポートについて実践的に研究【新規】	

2. 成果参考指標

成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位	
1	指標名	県立高校の県内就職率	目標値	80.0	80.0	82.0	84.0	85.0	%
	式・定義	県内就職内定者/就職内定者×100	取組目標値						
			実績値	74.2	76.6	74.0			
2	指標名	甲子園大会の全国応募チーム総数	目標値		100.0	130.0	170.0		%
	式・定義	書類審査に応募したチーム数	取組目標値						
			実績値	87.0	136.0	134.0			
			達成率	-	136.0	103.1	-	-	

3. 事業費

	前年度実績	今年度計画
事業費(b) (千円)	53,108	89,750
うち一般財源(千円)	53,108	56,713

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

- 平成29年度の県立学校の取組状況は、下記の通り。
 - ①企業見学：344事業所の協力により、5,258名が見学。
 - ②職業意識啓発セミナー事業：238名の講師の協力により、延べ5,366名の生徒が受講。
 - ③インターンシップ事業：953事業所の協力により、延べ2,868名で実施。
 - ④課題解決型学習：地域や企業等と連携し、30校、90チームで実施。
 - ⑤食の縁結び甲子園：前年度に引き続き130チーム以上の参加があり、目標値を超えている。
- 平成28・29年度みんなのまちづくりプロジェクト事業を実施した2町では小中学校でのキャリア教育の視点に立ったプロジェクト学習が行われた。平成29・30年度は1市で実施。
- 平成29年度「食の縁結び甲子園」に63校134チーム（うち県内10校33チーム）が参加。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

- 専門高校だけでなく、普通科高校においても「働くことを学ぼう事業」等を通じて、職業意識や県内企業への理解・関心が少しずつ高まってきている。
- 高校生が課題解決型学習の取組成果を校内だけでなく地域にも発信することで、地域と連携した教育が実践されるようになった。
- 小中学生が地域の課題に取り組み中で、児童生徒が地域の課題を自分自身のことと考えるようになり、地域への貢献意欲が向上した。
- 「食の縁結び甲子園」大会開催により、県内及び全国に島根食材の良さが発信され、島根食材を使ったレシピが多数作成された。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

- ①困っている「状況」
- 特に普通科高校では、学びを活かそう事業の活用が十分に進んでおらず、生徒の課題発見力や課題解決力といった、事業がめざす資質・能力の向上に生かされていない。
 - 小学校・中学校・高校それぞれでキャリア教育が展開されているが、連携が不十分であるため、系統的な人材の育成となっていない。
 - 県内の産業人材育成の観点から産業への理解促進の取組を行っているが、実際の人材供給は不足している。
 - 調理やプレゼンテーションの技術を競うレシピコンテストになっており、教育的価値が不明確。

②困っている状況が発生している「原因」

- 教育課程の観点から、専門高校に比べ、普通科高校は、例えば直接専門家の指導を受けたり、校外学習をするような活動に充てる時間の確保が難しい。
- 校種間で児童生徒の学びをつなぐ方法論がない。
- 児童生徒の地域産業や産業教育への理解促進や興味・関心の喚起が十分ではない。
- レシピコンテストの実施要領が、育てたい力を明確にした目的や評価になっていない。

③原因を解消するための「課題」

- 教科学習に比べ、体験的な活動を含むキャリア教育や課題解決型学習に充てる時間が少なく、それを補うために、どのように時間を確保していくかといったカリキュラム・マネジメントが各学校の課題となっている。
- キャリア・パスポートにより、校種間で児童生徒の学びをつなぐ必要がある。
- 産業人材の育成を図るため、学びを生かそう事業の中で地域産業や産業教育への理解促進や興味・関心の喚起を図る必要がある。
- 生徒の取組過程を重視した、教育的価値の高いレシピコンテストに再構築する必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- 上記課題を解決し、キャリア教育の視点に立った教科等横断的な学習や問題解決型学習等を推進するため、カリキュラム・マネジメントも含めた研修を、集合型研修や出前講座、訪問指導等の中で行う。
- キャリア・パスポート調査・研究事業の成果を県内に普及し、校種間の連携を促進する。
- 高校の学びを自分の人生や社会につなげていく機会を提供するため、大学等進学を希望する高校生に対し企業セミナーを継続する。
- 「学びの力向上チャレンジセミナー」の対象を新たに中学2・3年生とし、より早い時期から学ぶ意欲の向上を図る。
- 産業と密接に関係する専門高校を基盤に小学校・中学校・高校の児童生徒が地域産業から学ぶ機会を作り、地域産業や産業教育への理解促進や興味・関心の喚起を図る。
- 各高校が実施する「学校生活に関するアンケート」（平成28年度から実施）を分析し、現行のキャリア教育が島根の高校生に必要な力を育成できているか検証し、事業や各学校の実践の改善に生かす。
- レシピコンテストへの生徒の取組過程を見取ることのできる応募用紙や審査基準、審査員の選定などを工夫し、育てたい力を明確にした実施要領に改定する。

事務事業評価シート別紙(3以上の成果参考指標がある場合のみ記載)

事務事業の名称	明日のしまねを担うキャリア教育推進事業
---------	---------------------

成果参考指標の目標(実績)

項番	成果参考指標名等		年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	単位
3	指標名	地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を示す生徒の割合(中学校3年生)	目標値		59.0	61.0	63.0	65.0	
			取組目標値						
	式・定義	島根県の中学校3年生で地域や社会で起こっている問題や出来事に関心を示す生徒数/全国学力・学習状況調査を受けた生徒数×100	実績値	58.7	70.5	63.7			
			達成率	—	119.5	104.5	—	—	%
4	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%
5	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%
6	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%
7	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%
8	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%
9	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%
10	指標名		目標値						
			取組目標値						
	式・定義		実績値						
			達成率	—	—	—	—	—	%